

❖ 共通テストまで **50日**

時間はまだある, 全力を尽くせ

— 東高生は最後まで必ず伸びる —

ついに、1/16・17の共通テストまで残り50日となりました(11/27現在)。3年生のなかには、続々と返却される模試の結果を見て、焦りや不安を感じている人も多いかと思います。しかし、現役生は試験当日まで、絶対に伸びます。苦しくてもここであきらめてはいけません!

特集 50日前の戦い方

1 学習に関して



(1) 「基礎・基本」を再確認し定着させる

共通テストで一番ダメージが大きいのは、「基礎・基本」を問う問題で無駄な失点することです。**あやふやな基礎事項は早期に再確認し確実に定着させておきましょう。**最新のマーク模試においても、取りこぼしている基礎問題がきっとあるはず。各科目で、こうした問題を、あと1、2問ずつでも取っていければ、5教科7科目の合計点では、軽く50点以上の上昇が見込めるでしょう。これで合否判定が2段階は変わります。

(2) 模試と共通テスト演習の復習をキッチリやる

さらに、これまでの「模試」と学校での共通テスト演習で用いた問題をきちんと復習すべきです。特に、正解率が低かった問題に関しては、しっかり時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。今、手元にある教材をしっかりやり込み、理解を深める方が断然、効果的です。

(3) 50日かけて苦手分野を克服する

模試の「分野別、設問別の得点率」から、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。まさに、そこが最重要強化ポイントになります。その分野を強化することで、総得点を上げることが可能になるのです。**50日もの時間があれば、十分、克服が可能です。自分一人で困っていないで、東高校の先生方を有効に活用すべきです。**

(4) 理社の追い込み + 英数国の弱点強化

理系の理科(2科目)と文系の地歴は、向上の余地が十分に残されています。ただし、**英数国の勉強時間を減らしては何の意味もありません。**今後、英数国3教科の得点が上がってこなければ、いくら理社を強化しても目標に到達できません。特に、**数学と英語は、もう一段階上を目指しましょう。**

2 受験準備に関して



(1) 12月の『三者面談』で志望校を絞り込む

① 国公立大志願者は「出願先の組み合わせ」を作成する

前期日程に加え 『後期日程』・『中期・独自日程』まで検討する

本校の12月の三者面談では、毎年、生徒の希望とこれまでの模試での合格判定等を参考に、最終的な出願校の絞り込みをしています。そして、国公立大志願者に対しては、**共通テストの得点に応じた出願先の組み合わせのパターン(「前期日程」+「後期・中期日程」)を3つ以上設定**するよう指導しています。そして、共通テスト後には、あらかじめ設定した出願組み合わせを基にして、実際の出願を行います。その時になって、慌てることのないよう、12月中にしっかり検討して準備を進めておきましょう。そして、3月の後期日程までしっかり戦い抜きましょう。

◎国公立大入試「二次試験」出願先の組み合わせモデル

●第1志望 (⇒ 共通テストで目標点を越えた場合)

前期日程：A大学 ○○学部 □□学科
後期日程：B大学 ○○学部 ××学科

●第2志望 (⇒ 共通テストで目標点を少し下回った場合)

前期日程：B大学 ○○学部 ××学科
後期日程：C大学 ○○学部 △△学科

●第3志望 (⇒ 共通テストで目標点を大きく下回った場合)

前期日程：D大学 ○○学部 △△学科
(前期日程の難易度ランキング A>B>C>D)

*他にも、一部の公立大で実施している「中期日程」や「独自日程(前・中・後期日程とは別日程で併願可能)」の大学の利用も検討しよう。

② 私立大の『受験計画』を作成する

今年は特に、「共通テスト利用型入試」の検討も大事

各大学の募集要項で、受験科目、入試日程(出願、試験、入学手続き)、試験会場、定員等を確認しておきましょう。そして、自分の実力と大学の難易度とを考慮し、日程的にも経済的にも無理のない受験計画を立てておきましょう。「共通テスト利用型」入試も、出願日をよく確認し、有効活用することを検討しましょう。「コロナ禍」の影響もあるので、今年度は特にお勧めです。

(2) 「願書(募集要項)」の入手と「宿泊先」の手配

一般入試の「願書」は、各自で入手します。受験する可能性のある大学のものは、早め入手しておきましょう。なお、**宿泊についても、早めに予約しておくことを勧めます。**特に2月の私立大入試が集中する期間や国公立大前期日程の日は、毎年、取りにくくなっています。

特集2 今秋の進路関係行事 実施報告①

前期は、コロナ禍の影響により、外部の講師を招いた各種講演会が中止となりましたが、9月から、感染予防に努めながら、大学の先生をはじめとした外部講師を活用した講演会を実施しています。

● 2学年大学講義 10月2日(金)6・7校時

以下のように、「2学年大学講義」を実施しました。8名の先生方から、それぞれが専門としている学問分野について、興味深いお話をお聴きすることができました。

● 日時：10月2日(金)6・7校時

● 対象：2学年全員

● 講師：8名

山形大学	基盤教育機構	今泉智子先生
山形大学	基盤教育機構	ラインホルト・グリンド先生
福島大学	行政政策学類	鈴木典夫先生
福島大学	経済経営学類	佐藤英司先生
福島大学	共生システム理工学類	大橋弘範先生
福島大学	食農学類	升本早枝子先生
福島県立医科大学	新医療系学部設置準備室	五百川和明先生
会津大学	コンピューター理工学部	北里宏平先生

【受講者の感想まとめ】

● 「日本語と英語を比べてみよう」 山形大学 基盤教育機構 今泉智子先生

- 普段使っている日本語と英語の違いをあまり考えたことがなかったので新鮮だった。日本語の時制についてなど何も考えずに使っているの、説明するとなると、とても難しかった。
- 私たち日本人が、普段母語として当たり前に使っている日本語について、外国人が日本語を勉強するように、日本語を外国語としていつもとは違う視点から考えられた。
- 同じことでも話す人の捉え方や重視している内容によって表現は全く異なったり、本当に大切なことが伝わらなかったりするのかなと思った。

● 「身近な人生の問題に対して勉強は役立つか」 福島大学 行政政策学類 鈴木典夫先生

- イノベーションとはただ新しい物をつくるわけではなく、今まであった物の枠組みを合わせて新しい物をつくることなのだと分かった。主体的にアイデアを出し実践に移すことの大切さを知った。
- 大学進学に迷いを感じていたが、様々な分野の授業をとって、自分が1番関心をもった分野に進めば良いというアドバイスを頂けて安心した。
- ボランティアなど大学生が自ら考えて行動しているという話を聞き、すごいと思った。私も大学でそのような活動をしたいと思った。
- 文型でもAIなどについて勉強することが必要で、「文型、理系の垣根を越えて社会の問題を発見する」という話が印象的だった。90分間の講義は長いのかと思ったが、面白くてあっという間だった。

● 「市場競争のルールを支える経済学」 福島大学 経済経営学類 佐藤英司先生

- 経済学とは具体的に何を学ぶのかあまり分かっていなかった、今回の講義で、何を学び、どのような考え方が必要なのかがよく分かった。
- 経済学には数学が重要と思っていたが、たくさん売するにはどうしたらよいかなどの考える力が必要だと思った。社会のことについて考える学問だと思った。自分の身の回りで、どのように経済学が使われているのか、ニュースや新聞で知り、視野を広げることが必要だと感じた。

● 分かりやすい例を使って経済学について学ぶことができた。必要なことは考える力だと感じた。

● 「映画で見る昭和の生活」 山形大学 基盤教育機構 ラインホルト・グリンド先生

- 昔の映画を見るという貴重な体験ができた。今と同じようなところもあれば、全く違う生活もあり、驚いた。今とは違う習慣などが面白かった。
- ドイツ人の先生が、日本の映画に興味をお持ちになったことをうれしく感じた。昔の映画にもクスッと笑えるシーンがあり、日本人には日本人の笑いのツボがあるんだと思った。
- 先生の説明や解説を聞きながら、昭和につくられた映画を観て、今との生活様式や家族のあり方、仕事の状況などの違いを知ることができて面白かった。



● 「保健科学部について」 福島県立医科大学 新医療系学部設置準備室 五百川和明先生

- 医療技術者とは何なのか、理学療法士と作業療法士の違いは何なのか、チーム医療について、福島県立医科大学で学ぶメリットなどについて知ることができた。医療を目指す人には、周りを見て自分から動くこと、人を好きになり大切にできることが必要だと感じた。
- 医療技術者には、技術だけでなく高い倫理感やコミュニケーション能力が必要だと感じた。
- 医療技術者は、常に学びながら働くのだと知り感動した。
- 大学に進学し、より医療について学びたいという意欲が出た。

● 「化学のチカラで放射性セシウムを完全に封じ込める」

福島大学 共生システム理工学類 大橋弘範先生

- 何のために大学に行くのか、なぜ今勉強しなければならないのかという考え方が広がった。今まで、自分で視野を狭くしていたと感じた。理系の大学について深く話して頂けたので、大学について考えるきっかけとなった。
- この講座を通して、自分の興味のある分野を深く学びたいという目的をもつことができた。
- 今勉強している化学が「平和」にもつながると聞き、もっと知識を深めたいと感じた。

● 「はやぶさ2から探る地球の水の起源」 会津大学 コンピューター理工学部 北里宏平先生

- 小惑星を探索することが地球の生命の誕生の謎を解くヒントになると知り驚いた。
- はやぶさ2のことをよく知らなかったの、調べてみようと思った。
- 宇宙にはまだ謎が多く、私たちが知らないことばかりなのだと感じた。
- 今の技術ではできないことがこれから可能になっていくのだと感じた。

● 「果物と健康の科学」 福島大学 食農学類 升本早枝子先生

- 農業や食品の分野に興味があったので面白かった。スライドをたくさん使ったので分かりやすかった。果物について色々調べてみたくなった。
- 世の中には間違った広告があふれているということが分かった。
- 5大栄養素が一般的だったが、現在では、6大・7大栄養素が存在することを初めて知った。
- 日本は食べ物が豊富なのに、果物の消費量が少ないことに驚いた。